

専任教員の教育・研究業績

所属	職名	氏名	大学院における研究指導担当資格の有無	有	
体育学部	教授	足立 哲司			
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年月日 (期間)	概要		
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)					
1) 陸上競技I		2010年4月～現在に至る	走る、跳ぶ、投げる動作の修得のためにトップ選手の動きやフォーム、そして練習方法などの動画を視聴し、イメージさせた後に実践へと展開させている。また、実践を通して、修得させたスキルを指導者の立場からレポートさせることで、各種目の理解度を把握させている。		
2) 学生による授業評価の実施		2010年4月～現在に至る	FD委員会による授業評価を受けて、学生の意見を取り入れた講義内容の改善に取り組んでいる。		
2 作成した教科書、教材、参考書					
1) 体力トレーニング論・同実習		2010年4月～現在に至る	体力トレーニング論・同実習については、大修館書店から著書を出版し、テキストとして使用している。2021年度から新たに実習ノートを作成しテキストと併用して学生に学修させている。		
2) 陸上競技 I		2010年4月～現在に至る	陸上競技 I については、毎回の授業内容をまとめさせるために陸上競技ノートを作成し使用させている。陸上競技の各種目における詳細にまとめた資料を作成して走・跳・投動作の修得法を教授している。		
3) 実践トレーニング科学理論		2018年4月～現在に至る	授業内容を明確にするために2022年度よりテキストを作成し、学生の理解力の向上を図っている。		
4) 実践トレーニング指導実習		2019年4月～現在に至る	高等学校の課外活動指導へのインターンシップ実習を行うに当たって、学生の学びを記録できる実習マニュアル、実習ノートを作成し使用している。		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
1) 令和2年度堺市ゴールデンエイジプログラム (子ども育成)		2020年11月	令和2年度の堺市教育スポーツ振興事業団主催堺市ゴールデンエイジプログラムの講師を担当した。		
2) 尼崎市立尼崎高等学校特別授業		2021年11月	尼崎市立尼崎高等学校における連携授業「スポーツ生理学」の講師を担当した。		
3) 令和3年度健康運動指導士養成講習会		2021年12月	公益財団法人 健康・体力づくり事業財団における令和3年度健康運動指導士養成講習会にて「健康づくり運動の実際-ウォーミングアップとクーリングダウン-」、「健康づくり運動の実際-ストレッチングと柔軟体操の実際-」の科目の講師を担当した。		
4) 令和3年度堺市ゴールデンエイジプログラム (子ども育成)		2021年12月	令和3年度の堺市教育スポーツ振興事業団主催堺市ジュニア育成プログラムの講師を担当した (全2回)。		
5) 競技力向上セミナー		2022年6月	公益財団法人日本スポーツ協会・公益財団法人大阪府スポーツ協会における競技力向上セミナー (令和4年度競技力向上委員会・普及委員会「合同研修会」 兼令和4年度スポーツ指導者研修会) にて「効果的な体力トレーニング」の講師を担当した。		
6) 令和4年度健康運動指導士養成講習会		2022年7月・12月	公益財団法人 健康・体力づくり事業財団における令和4年度健康運動指導士養成講習会にて「健康づくり運動の実際-ウォーミングアップとクーリングダウン-」、「健康づくり運動の実際-ストレッチングと柔軟体操の実際-」の科目の講師を担当した。(7月8日・12月2日)		
7) 令和4年度堺市ゴールデンエイジプログラム (子ども育成)		2022年12月	令和4年度の堺市教育スポーツ振興事業団主催堺市ジュニア育成プログラムの講師を担当した (全2回)。		
4 その他教育活動上特記すべき事項					
1) 熊取町×大阪体育大学” DASHプロジェクト		2019年2月～2019年9月	“熊取町×大阪体育大学” DASHプロジェクトとして、「体力測定方法研修会 (全2回)」、「フレイル予防サポーター講座～めざそう!フレイル0”のまち、熊取～ウォーキング&体力測定ボランティアユース「体力測定方法・体力アップ体操の実習 (全1回)」の講師を担当した。		
II 研究活動					
著書 (共著・分担執筆)					
題目/書名	著者/編者	初 (始) 頁～終頁	発行所	発行地	発行年月
体力トレーニングの理論と実際 第2版	大阪体育大学体力トレーニング教室編	p7～p17, p85～p104, p147～p148	大修館書店	東京	令和3 (2021) 年3月

コミュニケーション力を育むレクリエーション 保育・教育現場で使えるクラブト&ゲーム70選	西村誠、津田由加子、足立哲司、中川善彦編	p8~p9	実生社	京都	令和5(2023)年3月
--	----------------------	-------	-----	----	--------------

原著論文(審査機関を有する学術誌に掲載の論文に限る。学会抄録等は含まない。)

題名	著者	誌名	巻	初(始)頁~終頁	発行年月
Validity of a triaxial accelerometer and simplified physical activity record in older adults aged 64-96 years: a doubly labeled water study	Yosuke Yamada, Yukako Hashii-Arishima, Keiichi Yokoyama, Aya Itoi, Tetsuji Adachi, Misaka Kimura	Eur J Appl Physiol	118巻10号	p2133~p2146	平成30(2018)年10月
若年女性における60分間のノルディックウォーキングとウォーキングのカロリー消費量と脂肪酸化量の差異	高橋篤志、足立哲司、池島明子、藤田将弘、豊岡示朗	大阪総合保育大学紀要	13巻	p17~p24	平成31(2019)年3月
幼児期における調整力の運動学習効果-2年間のデータを基にして-	西村誠、青木好子、足立哲司、山口孝治	佛科大学教育学部学会紀要	22巻	p103~p114	令和4(2022)年9月

その他(「症例報告」、「実践報告」、「研究ノート」等区分を記入)

区分	題名	著者	誌名	巻	初(始)頁~終頁	発行年月
	大阪体育大学学生の体力を測る-2019年度集計結果-	共 足立哲司、中井俊行、曾根裕二、藪中祐樹、丸谷賢弘、梅林薫	大阪体育大学紀要	第51巻	p49~p61	令和2(2020)年3月
	大阪体育大学スポーツ科学センター20周年シンポジウム報告書	共 梅林薫、足立哲司、藪中祐樹、丸谷賢弘	大阪体育大学スポーツ科学センター20周年シンポジウム報告書		p1~p40	令和2(2020)年3月
	2020年ジュニア育成ゴールデンエイジプログラム事業報告	共 山東悟、北野友悟、丸谷賢弘、水川大海、山口隼澄、足立哲司、梅林薫	大阪体育大学紀要	第52巻	p113~p118	令和3(2021)年3月
	特色あるプロジェクト「スポーツ科学センターのアスリートサポートシステムの構築」に関する活動報告:測定評価部門において	共 北野友悟、山東悟、石川智章、石居宜子、比嘉靖、足立哲司、梅林薫	大阪体育大学紀要	第52巻	p97~p111	令和3(2021)年3月
	大阪体育大学学生の体力を測る-2020年度定期体力測定中止について	共 足立哲司、曾根裕二、中井俊行、梅林薫	大阪体育大学紀要	第52巻	p143~p146	令和3(2021)年3月
	球技(テニス)のスタミナトレーニング	共 梅林薫、岡村修平、足立哲司	臨床スポーツ医学	第39巻3月号	p331~p333	令和4(2022)年2月
	大阪体育大学学生の体力を測る-2021年度集計結果-	共 足立哲司、中井俊行、曾根裕二、山東悟、北野友悟、生地毅章、梅林薫	大阪体育大学紀要	第53巻	p133~p139	令和4(2022)年3月
	総合実験室における低酸素人工環境制御室	共 足立哲司、梅林薫	大阪体育大学紀要	第53巻	p141~p144	令和4(2022)年3月
	大阪体育大学学生の体力を測る-2022年度体力トレーニング論・同実習編-	共 岡村修平、足立哲司、川島康弘、比嘉靖、高本恵美、松尾元太、中西啄真、高橋篤志、山東悟	大阪体育大学紀要	第54巻	p63~p71	令和5(2023)年3月

学会発表(「国際学会」、「国内学会(一般演題、シンポジウム、課題研究、講演等)」、「研究会」等区分を記入)

区分	年月	学会名	演題名	場所	発表者名
国際	平成30(2018)年7月	23rd annual Congress of the European College of Sport Science	PREDICTION OF MARATHON PERFORMANCE TIME USING PROGRESSION RUN	Dublin, Ireland	Tetsuji Adachi
国内(一般演題)	平成30(2018)年7月	第26回日本運動生理学会大会	体育系大学新入生の形態および体力的特徴-高校時代の競技レベル別比較-	大阪体育大学(大阪)	黒崎辰馬、高山慎、中井俊行、曾根裕二、友金明香、足立哲司、梅林薫
国内(一般演題)	平成30(2018)年7月	第26回日本運動生理学会大会	バドミントン選手におけるブライオメトリックトレーニングの実施脚の違いがトレーニング効果に及ぼす影響	大阪体育大学(大阪)	鈴川勝也、足立哲司、梅林薫
国内(一般演題)	平成30(2018)年9月	第73回日本体力医学会大会	パドルボードエルゴによるニーパドリング中の生理応答の競技レベル間比較	アオッサ・パピリン(福井)	深山元良、足立哲司、山本真史、實宝希祥、荒木雅信
国内(一般演題)	平成30(2018)年9月	第73回日本体力医学会大会	女子大学生室内球技選手における体力・筋力変化の学年による相違	アオッサ・パピリン(福井)	高山慎、梅林薫、中井俊行、足立哲司、黒崎辰馬、三島隆章、下河内洋平

国際	平成30 (2018) 年11月	11th International Conference for Strength Training 2018	Does the 30-kilometer training run before marathon race reduce time? - Randomized Controlled Trial in Recreational Runners -	Perth, Western Australia, Australia	Takeshi Yamauchi, Hideto Takahashi, Masato Tokui, Tetsuji Adachi, Kiichi Sugiyama, Atsuro Kushima, Nanki Nakashima, Kazuyoshi Maeda, Tomomi Motone, and Yusuke Yamauchi
国内 (一般演題)	平成30 (2018) 年12月	第7回日本トレーニング指導学会大会	研究プロトコール; 市民ランナーに対するマラソン前の30km走の効果ーランダム化比較試験	大阪学院大学 (大阪)	山内武、高橋秀人、得居雅人、足立哲司、杉山喜一、串間敦郎、中嶋南紀、前田和良、元根朋美、山内悠介
国内 (一般演題)	平成31 (2019) 年3月	第31回ランニング学会大会	市民ランナーでは、マラソン4週前の30km 走に十分な効果は見られないーランダム化比較試験 (RCT) を用いた検証	NSG学生総合プラザSTEP (新潟)	山内 武、高橋秀人、得居雅人、足立哲司、杉山喜一、串間敦郎、中嶋南紀、前田和良、元根朋美、山内悠介
国内 (一般演題)	平成31 (2019) 年3月	第31回ランニング学会大会	速度漸増トラックテストからLT・OBLA・マラソン記録を推測する	NSG学生総合プラザSTEP (新潟)	豊岡示朗、藤田将弘、足立哲司
国内 (一般演題)	平成31 (2019) 年3月	第31回ランニング学会大会	12 分間走テストを用いた男子大学生のLT・OBLA スピード推定法	NSG学生総合プラザSTEP (新潟)	藤田将弘、友金明香、足立哲司、豊岡示朗
国内 (一般演題)	平成31 (2019) 年3月	第31回ランニング学会大会	ビルドアップ走におけるエンドポイントの決定因子	NSG学生総合プラザSTEP (新潟)	足立哲司、足立博子
国際	令和元 (2019) 年7月	24th annual Congress of the European College of Sport Science □	MARATHON TIME PREDICTION USING THE 1KM RUN	Prague, Czech Republic	Tetsuji Adachi, Hiroko Adachi, Nanki Nakashima
国内 (一般演題)	令和2 (2020) 年3月	第32回ランニング学会大会	効果的な脂肪燃焼のタイミングはインターバル走の後にある	帝京科学大学 (東京)	足立哲司、足立博子
国際	令和2年 (2020) 年10月	25th annual Congress of the European College of Sport Science. □	VALIDITY AND RELIABILITY OF WEARABLE RESPIRATORY GAS ANALYZERS	Online	Tetsuji Adachi, Hiroko Adachi

III 加入学会および社会における活動

期 間	内 容
加入学会	
平成7 (1995) 年1月～現在に至る	日本体力医学会 会員
平成7 (1995) 年1月～現在に至る	ランニング学会 会員 / 常務理事 (令和元 (2019) 年度～) / 副理事長 (令和4 (2022) 年度～)
平成7 (1995) 年6月～現在に至る	日本運動生理学会 会員
平成10 (1998) 年4月～現在に至る	日本トレーニング科学会 会員
平成14 (2002) 年6月～現在に至る	日本肥満学会 会員
平成22 (2010) 年6月～現在に至る	日本生理人類学会 会員
平成30 (2018) 年3月～現在に至る	EUROPEAN COLLEGE OF SPORT SCIENCE 会員
令和4 (2022) 年6月～現在に至る	佛教大学教育学部学会 会員

IV 管理活動

期 間	内 容
委員会活動	
平成27 (2015) 年4月～現在に至る	学生委員会 委員【大学院委員会】
平成31 (2019) 年4月～現在に至る	施設検討委員会 委員【大学各種委員会・大学院代表】
平成31 (2019) 年4月～令和4 (2022) 年3月	スポーツ科学センター - 体力測定部会 部会長【全学委員会】→「廃止」に伴い体力テスト部会へ移行。
令和3 (2021) 年4月～現在に至る	体育学部 健康・スポーツマネジメント学科アスレティックトレーニングコース コース主任
令和3 (2021) 年4月～現在に至る	カリキュラム委員会 委員
令和3 (2021) 年4月～令和5 (2023) 年3月	入試委員会 委員
令和3 (2021) 年4月～令和5 (2023) 年3月	入試委員会 - 推薦入試実施部会 委員
令和4 (2022) 年3月～令和5 (2023) 年3月	カリキュラム専門員会 委員
令和4 (2022) 年4月～現在に至る	全学入試委員会 - 体力テスト部会 委員
令和4 (2022) 年4月～現在に至る	全学入試委員会 - 体力テスト実施部会 部会長

令和4（2022）年12月～令和5（2023）年3月		「令和4年度大学改革に向けた視察研修」視察者				
V クラブ活動の指導業績						
1. 指導クラブ名	トライアスロン	部	2. 役職	部長兼監督 2021年4月～	3. 部員数	14 人
4. 現場指導の頻度	③ ① ほぼ毎日 ② 週3日 ③ 週1日 ④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導 ⑤ 全く関与していない					
5. 合宿指導	年間合宿回数：	回	延べ日数：	日		
6. クラブの競技力向上への取り組み	② ①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない					
7. クラブの教育及び部員の学習への取り組み	② ①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない					
8. 部員の就職指導への取り組み	② ①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない					
9. 年間の引率公式大会名	大会名		期 間	場 所		
	西日本学生トライアスロン選手権 in 尾道大会		6月	広島県尾道市		
	日本学生トライアスロン選手権 in 観音寺大会		9月	香川県観音寺市		
10. クラブ戦績（全日本選手権8位以上、関西選手権4位以上、関西1部リーグ3位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。）						
開 催 期 間	大 会 名		成 績	場 所		
VI 賞罰（職務に関する賞罰）						
年 月	受賞等機関名	内 容			備 考	
平成27（2015）年7月	学校法人浪商学園	インターカレッジ優勝（陸上競技；女子1万m：2011年）に導く選手育成に貢献したことが称えられ、学校法人浪商学園より大島鎌吉スポーツ奨励賞を授与された。				